

## 式辞

### 諸君

まさに春爛漫の好季に、山口大学教育学部附属山口中学校第七十二回入学式を挙行できることを大変喜ばしく思います。また挙式に当たり多数のご来賓の方々にご臨席賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、校長の第一の職務は入学の許可です。許可はしますが入学するのは諸君自身です。しかし「入学」とは何ですか。分かった気になっているだけではありませんか。「入学おめでとう」などと言って浮かれているうちは本当の入学を果たすことはできません。

小学校、中学校、高校、大学とそれぞれに入学はありますが、本当の入学はただ一度しかありません。「入門」と申しますね。「入学」とは学びの門が開くということです。「学ぶ」ということが諸君の人生で初めて起ること、これを「入学」というのです。

それでは「学び」の門が開くとはどういうことでしょうか。ここでそれを少し考えて見ましょう。入学生諸君。少し考えてみてください。周りの人と話し合っても構いません。それでは誰か、意見の言える人は手を挙げてください。

女子生徒A:「学びの門」が開くのではなく、自分たちが「学びの門」開くのだと思います。

一なるほど。そこに何が開かれるのかな。

A:教科だけでなく、部活や行事などを通じて人間にとって大切なものです。

(拍手)

一ありがとうございます。そのほかには？もう一人くらい。

まあ、それぞれにイメージしたものがあると思う。たとえば知らなかったものを知るとか、出来なかったことが出来るようになるとか、そんなことをイメージした諸君もいたんじゃないか。それはそれでそれぞれに学びの門が開けそうですね。しかしその開けた処が結局、自分の中で閉じていないかが問題です。何かにとれほど興味関心を持ったとしても、それが自分の興味関心に閉じられているならば、学びの門が開かれたとは言えません。またどれだけ知識や技術を身につけても、それだけのことであれば学びの門は開かれてはいません。

先日終業式の式辞で生徒に、歴史学の対象は「歴史」で、生物学の対象は「生命」、ならば理科の対象は、と聞いたら一人目の生徒が「自然」と答えてくれました。それに対し二人目の生徒は「身の回りの不思議」と答えました。これはとても面白いなあと思いました。

本校で目指す「入学」は理科で言えば、自然についての知識を増やしたり、増やそうとしたりすることではなく、まずは身の回りの自然の不思議に目覚めることです。音楽で言えば、正確に演奏する技術を身につけたり身につけようとしたりすることではなく、音楽の不思議に目覚めることです。

同じ「入学」でも「知識や技術を身につける」と「身の回りの不思議に目覚める」とはまったく異なります。いくら知識や技術を身につけても、それだけのことであれば、達成感はあるかもしれませんが、その喜びは直に色あせてしまいます。それはその喜びが浅いものだからです。何故浅いか。自分の思いを一歩も出ていないからです。

それに対して「不思議に目覚める」には思いが破れる、ということがあります。そこで人間はどこまでも深いものに触れているのです。この喜びは深い。深いからどこまでも学び続けようとする。分かっても分からなくても、できてもできなくても学び続けようとしします。

自然や音楽の不思議に触れて感動する、そこにも学びの門は開けていますが、それではなお本校の入学を果たしたとはいえません。もう一つ先の奥の院の門があるのです。自然や音楽の不思議に触れて感動する。そのことが人間の身に起こるのは何故でしょう。ここにもう一つ大きな不思議があります。それは「身の回りの不思議」を不思議と思う「我が身の不思議」です。「身の回りの不思議」ではなく、「我が身の不思議」です。それは諸君が人間の身に生まれたことの上に起こる不思議です。皆さんが泣いたり笑ったりするのは、皆さんが人間の身に生まれたからです。しかし泣いたり笑ったりするのは人間だけです。人間自体が不思議でどこまでも分からない深い存在だということです。

人間は対象の内に、他者の内に、そうして自己の内に「人間」を見出すことを通じて人間になっていきます。これが本校のスローガンである「人間を学ぶ」ということです。しかしこの「人間」はどこまでも分からない深いものです。こうした「人間」が諸君の上に開かれること、これこそ本校が諸君に求める「入学」です。

諸君。諸君がその身に生まれた人間の深みに目覚め、真の入学を果してください。

さて、最後になりましたが、新入生の保護者の皆様、本日からお子さんを、山口大学教育学部附属山口中学校の生徒として、おあずかりいたします。お子さんが、「創造的な知性と判断力を身につけ、自他を敬愛し、進んで奉仕をし、そして、たくましく生き抜く力を身につけた人間」となるよう、教職員一同、力を合わせて育てて参ります。

本学園は、山口大学教育学部の教育実習の場となり、また学部・大学院との協力のもと先導的な取組を行い、「公教育のモデル校」となることを通じて、山口県の教員の資質・能力の向上、教育活動の推進に寄与するという使命を負っています。

本附属中学校の設置の趣旨をご理解いただき、教育・研究の推進に、皆様の多大なご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げ、入学式の式辞といたします。

平成三十年四月九日

山口大学教育学部附属山口中学校  
校長 佐野之人